

～まちだゆかりの作家～

いいだよしくに

飯田善國 (1923-2006)

2017年9月27日(水)～ 12月24日(日)

飯田善國は国際的に活躍した町田ゆかりの彫刻家です。色鮮やかなローブとステンレスの立体を組み合わせた作品や、風によって動く大規模な彫刻など、常に新しい表現を求め続けました。手がけた公共彫刻は、国内外をあわせて40点以上にのぼります。

1970年代半ばに町田市に住居とアトリエを置き、1989年には町田市芹ヶ谷公園の《彫刻噴水・シーソー(虹と水の広場)》を制作します。支柱の高さが10メートル、シーソーの長さが14メートルの巨大な噴水彫刻で、風の力を受けて時々刻々と姿を変えながらダイナミックに水を流れ落とします。町田市を代表するモニュメントのひとつとして、子どもの遊び場や市民のやすらぎの場として、多くの人々に親しまれている作品です。

飯田は1923年(大正12年)に栃木県足利郡筑波村(現在の足利市)で生まれました。慶應義塾大学文学部へ進むものの1943年(昭和18年)に応召し、「学徒出陣」により中国大陸で戦いました。1946年(昭和21年)に復学した後は美術を志すようになり、東京藝術大学へ入学して絵画科の梅原龍三郎教室で学びます。

彫刻や絵画に熱心に取り組んだ一方、飯田は版画にも多彩な才能を発揮しました。制作の始まりは1950年代末のウィーン留学中のことで、いかなる造形へ進むべきか暗中模索のなかで銅版画と出会いました。1972年には西脇順三郎の英文詩にスクリーンプリントを添えた詩画集『クロマトポイエマ』を制作、独自のルールで「言葉、色、形」を結ぶ構成の奇抜さに多くの人が驚きました。また1992年の版画集『M.M.曲面シンドローム』ではマリリン・モンローをテーマに色彩豊かな作品を展開、アルファベットと色帯を組み合わせた構図のなかには知的なユーモアとエロスが漂います。

本展では、飯田善國の版画の魅力を約50点の作品によりご紹介いたします。

初期の銅版画

1956年、作家の野上彌生子とその息子、イタリア文学者野上素一の尽力により飯田はローマへ留学する。翌年ウィーンへ移り、1967年末の帰国まで11年にわたる滞欧生活が続いた。造形上の試行錯誤を重ねる飯田の不安な心を癒したのは、西脇順三郎(1894-1982)の詩集と銅版画の制作だったという。

「ローマでせっかく始めた彫刻への道は、ウィーンへ来て、なんとなく中途半端な形で中断されてしまった。私は自分の行くべき方向感覚を喪失したまま、時間稼ぎと気晴らしに、市立の版画実験学校に聴講生として通いながら、銅版画の技法を勉強し始めていた。*1」と飯田はのちに回想する。

*1 飯田善國『彫刻家 創造への出発』岩波書店、1991年、p.126

◇凡例 リストは展示順で、各データの記載順は以下の通り。
題名 制作年 版画技法 寸法(縦×横 mm)

腰かけている横向きの男	1958年	エッチング	326×220mm
何かを投げた男	1958年	エッチング	340×220mm
立てる男	1958年	エッチング	257×183mm
佇立するヌード	1958年	エッチング、アクアチント	288×185mm
無題	1958年	エッチング	134×93mm
裸のサロメ	1958年	エッチング	134×175mm
ベッドにあお向けでよこたわる女	1958年	ソフトグランド・エッチング	175×250mm
へびと円光とヌード	1959年	エッチング	219×319mm
ぐにやぐにゃの太陽と尻をこちらに向けたヌード	1959年	エッチング、ソフトグランド・エッチング	327×218mm

キューブ的なサロメ

1959年 エッチング 184×257mm

詩画集『クロマトポイエマ』(全18点)

詩:西脇順三郎 版画:飯田善國

1972年 スクリーンプリント 750×550mm

1972年、南天子画廊から限定50部で出版された詩画集。同年5月22日～6月3日に「西脇順三郎・飯田善國の色彩詩 クロマトポイエマ展」が南天子画廊を会場に展示紹介されている。

題名は英文学者で詩人の西脇順三郎(1894-1982)が発案したもので、ギリシア語の *chroma*(色)と *poiema*(詩)の造語である。序文に瀧口修造の文章「不可視の碑をもとめて」が添えられ、表紙は西脇の横顔のシルエットをデザインした。

飯田は詩と挿絵の関係性をあらたに構築しようと考えて詩の言葉をAからZまでのアルファベットに分解、26文字を26色の色に置き換えた。例えばAは黒に近い灰色、Eは萌黄色、Iはレモン・イエロー、Oは紫、Uはイエロー・オーカーである。のちに飯田は次のように回想している。

「言葉を26色に分解するという発見は、実はもっと深い動機を含んでいたのかも知れない。すなわち、言葉を通して物へ、また、物から言葉へ、という往復運動を促すものであるかも知れなかった。また言葉の背後に隠れてしまっている物を引きずり出し、また、物のうえにへばりついている言葉の虚構性を暴露するきっかけになるかも知れなかった。*2」

*2 飯田善國『震える空間 宇宙・人間・彫刻』小沢書店、1981年、p.98

※作品は西脇順三郎の英文詩『クロマトポイエマ』(*Chromatopoiema*)

所収の18詩篇と呼応するが、詩集に収録された順序とは異なる。

スクリーンプリントをもちいて紙に多色で刷り、アクリルシートに黒インクで刷り、その2枚を重ねて作品とする。表紙については紙のみに刷っている。サイズはシートの寸法を示す。

表紙

No.1 a pristine

No.2 berenson

No.3 fortune

No.4 vision and

No.5 the fate

No.6 dawns

No.7 a sting of a wasp

No.8 illusory

No.9 flimsy

No.10 stop illusion

No.11 boukolika

No.12 conscience of

No.13 a packet of

No.14 a working at the loom

No.15 lineaments of

No.16 the blood of

No.17 a pot of basil

No.18 the medici

『クロマトフィロロギア』より

1973年 鉛筆、フェルトペン、コラージュ 210×298mm

※版画ではありません。

題名はギリシア語で「色彩言語学」を意味する。『クロマトポイエマ』を制作した後、今度は自らが選んだ言葉をアルファベットに置き換え、これに「色帯」を組み合わせる方法によって一連の油彩画や素描を制作した。すべて市販の方眼紙に描かれている。のちの彫刻作品の形態を暗示する発露を見出すことができる貴重な作品群。

PROFOUND-SHINENNA

1973年8月27日

LOVING-AISURU

1973年8月28日

KABE-WALL

1973年8月30日

A, B, C, D, E, F, G, H

1973年9月2日

MAN-MACHINE

1973年9月2日

EGOISM-DEVOTION

1973年9月2日

『M.M.曲面シンドローム』(全15点)

1992年 スクリーンプリント 380×540mm

題名の M.M.はマリリン・モンロー(1926-1962)のイニシャル。版画集にはスクリーンプリントによる作品15点のほか、飯田善國、海野弘、建畠哲によるテキストが和文英文併記で盛り込まれている。版画集に収録されたテキスト「不滅のマリリン」のなかで、飯田は次のように考察する。

「自然な、やわらかいニヒリズムの匂い。これこそが彼女の差し出すエロティシズムが他の凡百の女優たちとのそれと本質的に違ったものとして私たちに感じられる理由となるだろう。モンローのあどけない、計算された無垢。あるいはくすぐるような自然の色気の演技の裏側に、人は、彼女の深い深い孤独感、救いを求めて彼女が発信している求愛信号の、打算を超えた本当さを感じ取る。」

そう語る飯田自身もまた、3歳で父を亡くし7歳で実母との別れを体験し、癒えることのない欠落感をかかえてきた。

- No.1 Young-I am Marilyn Monroe
- No.2 Der After - Shiri
- No.3 FOOT-SHOES
- No.4 HIPS-SHIRI
- No.5 LINE OF BODY-NIKUTAI NO SEN
- No.6 BABY-WOMAN
- No.7 RUB OUT-REMAIN
- No.8 FOOT-WHOSE
- No.9 SMILE-PERSONALITY
- No.10 WHO-WHO
- No.11 BOTTOM-ROSE
- No.12 MIRACLE OF M.M.-KISEKI
- No.13 MONROE'S-NUDE
- No.14 KOI-LOVE
- No.15 LIPS-KUCHIBILU

飯田善國 略年譜

1923(大正12)

栃木県足利郡筑波村大字小曾根(現在の足利市小曾根町)に生まれる。3歳で父が病死、7歳のときに母が本家に善國を預けて東京に出る。伯父夫妻、祖母、従兄らのもとで育つ。

1943(昭和18)

慶應義塾高等部に入学。12月に応召、学徒出陣。

1946(昭和21)

中国大陸から復員。慶應義塾大学へ復学する。

1947(昭和22)

東京都目黒区に住む。慶應義塾大学で文学部国文科から哲学科の美学・美術史専攻に移る。西脇順三郎の「文学概論」を聴講する。

1949(昭和24)

慶應義塾大学文学部を卒業。7月、東京藝術大学絵画科油画専攻に入学して梅原龍三郎教室で学ぶ。

1951(昭和26)

結核の静養のため北軽井沢で過ごす。作家の野上彌生子と親しくなる。

1953(昭和28)

東京藝術大学絵画科油画専攻を卒業。7月、日本橋の丸善画廊で初個展。この頃、武者小路実篤の「新しき村」に入会して猪熊弦一郎のアトリエに通う。

1955(昭和30)

4月、粕三平、石井茂雄、河原温、池田龍雄らと「制作者懇談会」を結成して研究活動を行う。

1956(昭和31)

11月、野上彌生子、素一の世話でイタリア留学。ロンドン、パリを経由して12月にローマへ到着。

1957(昭和32)

彫刻家ペリクレ・ファッツィーニの私塾に通い、初めて塑像を制作。8月、ミュンヘン経由でウィーンに移る。

1958(昭和33)

ウィーン版画教育実験学校の聴講生。銅版画技法を学ぶ。

1959(昭和34)

5月、ローマで神奈川県立近代美術館の土方定一と面会する。

1961(昭和36)

6月、カップフェンベルク市の芸術祭で鉄の彫刻を制作。8月、ウィーン南西のザンクト・マルガレーテンで「ヨーロッパ彫刻家シンポジウム」に参加し、石の彫刻を制作。11月、ウィーン市より1961年度芸術奨励賞を受け、新しいアトリエを与えられる。12月、ウィーンのアフロアジア研究所で彫刻、銅版画、油絵画による個展を開催。

1962(昭和 37)

7-8 月、ユーゴスラヴィアの彫刻シンポジウム *Forma Viva* にオーストリア代表として招待参加。9-10 月、ベルリン市主催の「ヨーロッパ彫刻家のシンポジウム」に招待参加し石彫を制作する。

1965(昭和 40)

「アムステルダム・ベルリン・フランクフルト 65 年展」「国際彫刻シンポジウム展望」などに招待出品。一時帰国し、出版社の企画で西脇、浜田知明と 3 人で「多摩川散策」をする。

1967(昭和 42)

1 月、ベルリン市主催「モニュメント彫刻コンペティション」で1位。7 月、ベルリンの画廊で彫刻による個展を開催。

1968(昭和 43)

5 月、「第 8 回現代日本美術展」(東京都美術館)にステンレスの彫刻を出品して神奈川県立近代美術館賞を受賞。10-11 月、第 1 回神戸須磨離宮公園現代彫刻展で最高賞を受ける。

1969(昭和 44)

9-11 月、日本鉄鋼連盟・毎日新聞社主催による「国際鉄鋼彫刻シンポジウム」を実行委員として実現、自らも出品する。

1970(昭和 45)

3-9 月、大阪で開催された「万博美術展」に出品する。

1972(昭和 47)

西脇順三郎とともに、詩画集『クロマトポイエマ』を制作。

1974(昭和 49)

ニューヨークの画廊で「クロマトフィロロギア展」が開催される。

1983(昭和 58)

法政大学工学部建築学科教授となる。(～89 年)。

1986(昭和 61)

4-7 月、慶應義塾大学文学部で「詩学」の講義を担当。9-10 月、フランクフルト・アム・マインのシュトルペーター美術館で個展が開催される。

1988(昭和 63)

彫刻を中心とした大規模な回顧展「つながれた形の間の一飯田善國展」が三重県立美術館、目黒区美術館、京都国立近代美術館で開催される。

1989(平成 1)

芹ヶ谷公園に《彫刻噴水・シーソー(虹と水の広場)》を制作。

1993(平成 5)

7-8 月、「飯田善國一画家としてのプロフィール展」が目黒区美術館で開催される。

1994(平成 6)

12 月、「光の糸が見える一飯田善國」展が港区三田の慶応義塾大学北新館とノグチルームで開催される。

1997(平成 9)

10-11 月、「飯田善國一初期作品と郷土後援会」展が足利市立美術館で開催。12 月から翌年 2 月まで「連続する出会い 飯田善國」展が神奈川県立近代美術館で開催される。

2002(平成 14)

長野県穂高にある(株)ハーモニック・ドライブ・システムズに IIDA・KAN が完成(建築は槇文彦)、油彩画を中心に常設される。

2006(平成 18)

旅行先の長野県松本市で心不全のため逝去(享年 82 歳)。

町田ゆかりの作家

あぜちうめ たらう 畦地梅太郎 (1902-1999)

丸の内の景

1926 年頃 鉛凸版 158×179mm

ささ山の村

1947-48 年頃 木版(多色) 395×282mm

鳥と山男

1957 年 木版(多色) 551×357 mm

秋

1963 年 木版(多色) 315×240 mm

浮世絵玉手箱

おがたげこう 尾形月耕 (1859-1920)

ふじんふうぞくづくし
婦人風俗尽 虫ぼし

明治 24 年(1891) 大判錦絵

ふじんふうぞくづくし
婦人風俗尽 いわみ

明治 24 年(1891) 大判錦絵

ふじんふうぞくづくし さんきょく
婦人風俗尽 三曲

明治 24 年(1891) 大判錦絵

2017 年 9 月 27 日発行

町田市立国際版画美術館 <http://hanga-museum.jp/>